

構造改革を怠ると

岐路にある現在の日本
〔ここ1~2年が分かれ道〕
(重点強化期間)

構造改革を進めれば

回避すべき将来像

(国際経済)

経済連携に遅れ、成長機会を失う
⇒ 閉ざされた元経済大国

(外交・安保)

影響力低下で国際政治に受動的対応
⇒ 状況主義の国家

(国内経済)

人口減少で生産活動が縮小、生産性も停滞
⇒ 緩やかに衰退する経済

(政府・公共)

大きな政府が経済活動の重し・足かせ
⇒ 活力を欠く高負担高依存社会

(個人・生活)

努力しても報われず、格差が固定化する
⇒ 希望格差社会

(地域)

画一主義が阻む地域の自主的な取り組み
⇒ 郊外のゴースタウン化

目指すべき将来像(2030年); 環境変化に対応し、自律的に「構造進化」

壁のない国: 経済統合を推進、世界中の人が訪れたい・働きたい・住みたい国

魅力と存在感のある国: 個性と地域が輝く文化列島、フロントランナーが作る世界標準

世界の中のかけ橋国家: 世界人・知日人の大幅増、地球的課題へ主導的役割

列島開放が生む活力: 多様多才なプロが働く、世界の知的開発拠点

生産性と所得の好循環: 信頼される市場が鍵、1人当たり2%程度成長

豊かな公・小さな官: 自分の可能性を高めながら公の活動を担う奉私奉公

将来世代へ負担を先送りせず、歳出歳入構造を改革し、財政再建

時持ちが楽しむ健康寿命80歳: 高齢化克服先進国 楽しく働き・よく学び・よく遊ぶ

人が躍動する社会: 個人が主役、夢を実現する機会、志の再生と再挑戦の国

地域主権の実現: 地域政策における選択と集中 コンパクトなまちづくり